令和元年度 月刊 サイ 校長通信３号

（生徒・保護者版） R元.6.27（６月号）

俊英NOW

●ソフトテニス県総体大会（６月１～２日：浅間温泉庭球場）

祝 男子団体・男子個人１ペア全国大会（インターハイ）出場（宮崎県宮崎市）

今年度は、危なげない圧勝でした。インターハイでの健闘を期待します。

女子は、おしくもベスト８でした。

【男子団体戦】優勝（２連覇）

１回戦	小諸商業	３－０
２回戦	阿南高校	２－０
３回戦	上田千曲	２－０
準 決	松本蟻ヶ崎	２－０
決 勝	上田染谷	２－０

【男子個人戦】

香川隼・三嶋響弥ペア優 勝

●「女優」を演じる女優　山﨑到子先生（国語科）

山崎Ｔは、役者としても精力的に活動しています。６月２日、上田市で公演があり観てきました。演目は『楽屋』。チェーホフ（ロシアの有名な作家です。)の『かもめ』という演劇を演じている女優たちの楽屋が舞台という、ちょっと複雑な構造になっています。つまり、女優さんたちが「女優」を演じているのです。(分かるかな?）山崎Ｔは、ベテラン主演女優の役。突然、若手女優から主演の交代を要求され、プライドと焦りが交錯。そこに二人の万年脇役の女優が絡んで・・・・。複雑な心情を見事に演じる山崎Ｔに感動しました。

●祝 お誕生

小長谷先生(国語科)に２番目のお子さん、いろはちゃん（女子）が生まれました。おめでとうございます。（まだ、奥さまの実家に滞在中。）

校長 ESSAY

「義務教育を受けましたか？」

教員採用試験のときの面接で忘れられない思い出がある。「あなたは、義務教育を受けましたか？」と聞かれたのだ。日本国民である以上、義務教育を受けないわけがない。私は非常に戸惑った。質問の意図がよくわからぬまま、しかし、仕方ないので「はい、受けました。」と答えると面接官は、「おかしいな、君は、義務教育は受けていないはずなんだが‥‥‥」と言いながら、書類の綴りをさかんにひっくり返している。

両者ほぼ同時に、このちぐはぐな状況の原因を理解した。面接官の質問は、「義務教育の採用試験を受けたか？」ということだったのだ。不機嫌そうな面接官の様子もあり、空気が凍りつくような感じがした。よっぽどのバカに思われたんじゃないだろうかと思って、面接官の顔を見た瞬間、「ハハハハハ、こりゃ質問が悪いよな。」と彼は大笑いした。凍りついた空気が一瞬にして消滅、その後、面接は極めて順調に進行した。

ベルクソンというフランスの哲学者（1859― 1941）に『笑い』（岩波文庫）という著作がある。この本によれば、生き生きとした人間の活動が何らかの理由で硬直し、機能不全に陥ったとき（「生けるものに貼りつけられた機械的なもの」に直面したとき） に必然的に生じる社会的動作が「笑い」であり、これにより「機械的なもの」は剥ぎ取られ、「生けるもの」は再び生き生きした生命を取り戻すのだそうだ。もっと簡単に言えば、人間関係がぎこちなくシラケたものになった時、それを一気に解消する力を「笑い」は持っているということだ。私の体験は、その典型的な例かもしれない。

ところで、「授業」という「生けるもの」に時々「機械的なもの」が貼りつくことがある。生徒の活き活きとした生命力が失せ、集中力の欠けた散漫な雰囲気が教室を覆ったとき、先生がとっておきのジョーク。教室はどっと笑いに包まれて「授業」は再び命を取り戻す。そんな情景を思い出した。そんな雰囲気の授業が私の理想である。

近年、教師が一方的に教えるのでなく、生徒が主体的に活動する授業＝「アクティブ・ラーニング」が重視されているが、こうした活き活きした雰囲気の授業こそが「アクティブ・ラーニング」の基礎になるのではないだろうか。誤解を恐れずに言えば、クラブ活動や生徒会活動が無くなっても学校は学校だが、授業が無くなったら、学校は学校でなくなってしまう。長野俊英高校は、今後とも授業を重視する学校として努力して行きたいと考えている。

英語（水野 T）